

確かな学力を育むための「わかる授業」の創造

ーメディア活用の目的を明確にした授業づくりー

坂出・綾歌中学校教育研究会
メディア教育部会

1 研究主題について

「生きる力」を育むという新学習指導要領の基本理念を実現するため、思考力・判断力・表現力の育成や確かな学力を確立するために必要な時間確保などがポイントとしてあげられている。特に、多様な情報の中から必要な情報を効率的に選択し、それらをもとに自分の考えや思いを主体的に表現・発信する力の育成を図ることが学校教育に求められていると考える。それはまさにメディア教育の担う役割であり、加速化する高度情報化社会の中においてその役割はますます大きくなっている。

そこで、本部会では「教えて考えさせる」学習活動を通して、「自ら学び、自ら考えることができる生徒」の育成を目指すこととした。自ら学ぶみなもとは「知的好奇心」であり、メディア教材を積極的に活用することで「知的好奇心」と学習の理解度の双方を高めようと考え、本主題を設定した。

2 研究の進め方

(1) 研究の概要

研究授業及び討議をもとに主題に迫り、各校での授業実践及び発表を行い、各校の教育実践に活かす。

(2) 研究の過程

ア 5月 2日（坂出市立東部中学校）

研究組織及び主題の決定，研究の進め方についての共通理解

イ 6月26日（坂出市立白峰中学校）

研究授業（社会），研究討議，各中学校での実践事例についての情報交換

ウ 11月 2日（香中研特別活動研究大会に参加）

場所：坂出市立坂出中学校

研究授業，研究討議に参加

エ 11月 9日（香川県中学校教育研究会メディア教育研究大会に参加）

場所：三豊市立美野津中学校

研究授業，研究討議に参加

3 研究と実践

(1) 研究授業 I

ア 第2学年 社会科

題材 文明のおこりと日本の成り立ち

授業者 坂出市立白峰中学校 藤本 達哉

イ 本時の目標

(ア) ICT機器やワークシートの活用により、今から約4500年前に、巨大なピラミッドを建設できるだけの文明が存在したことを理解することができる。

(イ) ピラミッドが作られた目的をエジプトの地形や当時の資料から考えることができる。

ウ 学習指導過程

(ア) google Earthを活用し、ピラミッドの位置を確認

(イ) ピラミッドは作られた理由を予想

(ウ) 検証

- ① 大きさを確認する。
- ② 立地場所を考える。
- ③ 「死者の書」を確認する。
- ④ 他の説を紹介する。

(エ) まとめ

- ① (ウ)を踏まえ、ピラミッドが作られた理由について、自分の説をまとめる。
- ② 教師の説明から最も有力な説が「王の墓」であること確認する。



エ 討議内容

- ・ リアルタイムでの情報提示は、副次的にあれば、理解が深まる。
- ・ ピラミッドを別の近代的な建物と比較することや川の近くのピラミッドをテレビ画面で提示することで、生徒が、身近な情報として受け取ることができ、学習意欲が高まっていた。
- ・ 学習課題を映像としてイメージしやすくし、ヒントになる画像資料が子どもの思考の流れに沿ってテンポよく提示されたので、深まりのある授業が展開されていた。
- ・ オンラインで動画を見られない。
- ・ 準備に手間がかかる
- ・ 普段から画像はよく見せる。
- ・ 意外に目的とする情報を探すことが困難なため教師側で下準備が必要である。
- ・ ポイントの情報をピックアップし事前に準備し、そこから選択させる。
- ・ テレビを活用したパワーポイントは、比較的分かりやすい。
- ・ メインの板書と考えさせたい場面のテレビ画面と分かれていて、考えやすい。
- ・ テレビ内の画面を2画面に分割し、グーグルマップ上の地図をズームイン、アウトを行い自分の学校の地図を世界地図から学校平面図までをリアルタイムに辿りピラミッドと自分たちの中学校の大きさの違いを視覚的に理解できるように工夫していた。



4 今後の課題

生徒にわかる授業を行うためのICT活用を検討する上で、時間・費用・教員の活用スキルの問題がある。RGB・プロジェクト・HDMI等各種端子のある大型テレビは、その突破口になると考える。既存のノートPCを筆頭に各種視聴機器が接続でき、メディア教材を手軽に活用できる。普通教室にテレビを設置することは、昔から実施されていたが、最近の大型高画質テレビは、プロジェクトに勝る鮮明な画像や映像を表現でき、ノートPCと接続してのプレゼンも珍しくない。学習効果をねらうことも大切であるが、我々が家庭にある既存の機器を使って楽しんで観ることが、わかる授業づくりのスタートになると考える。